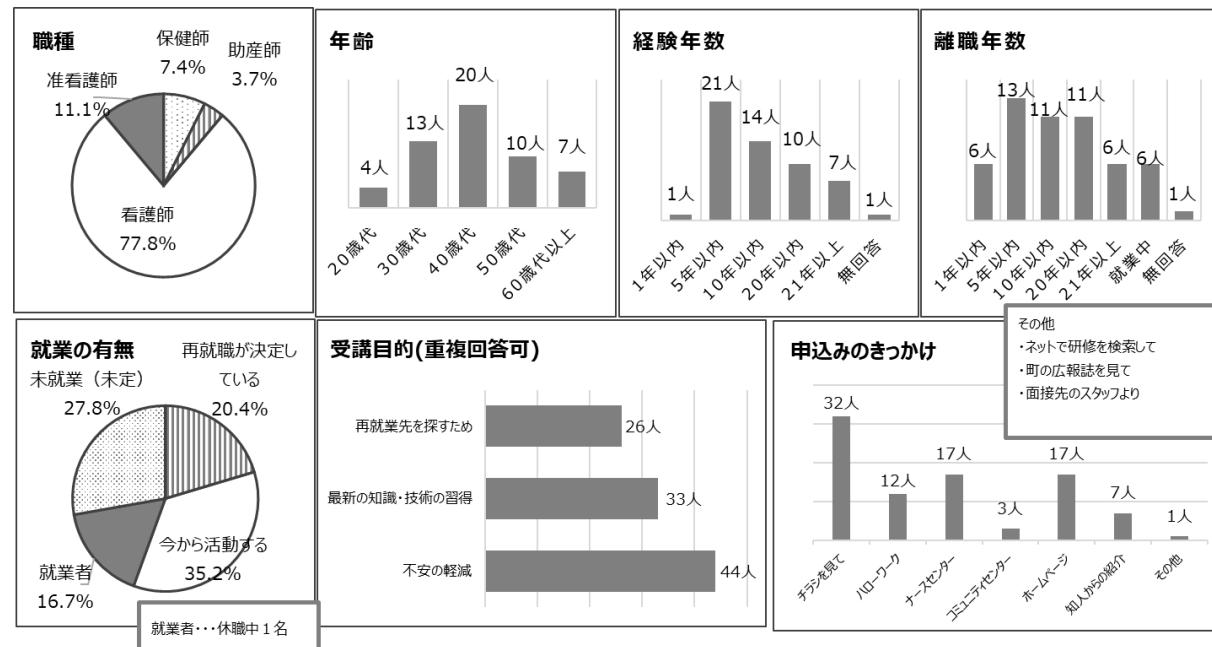


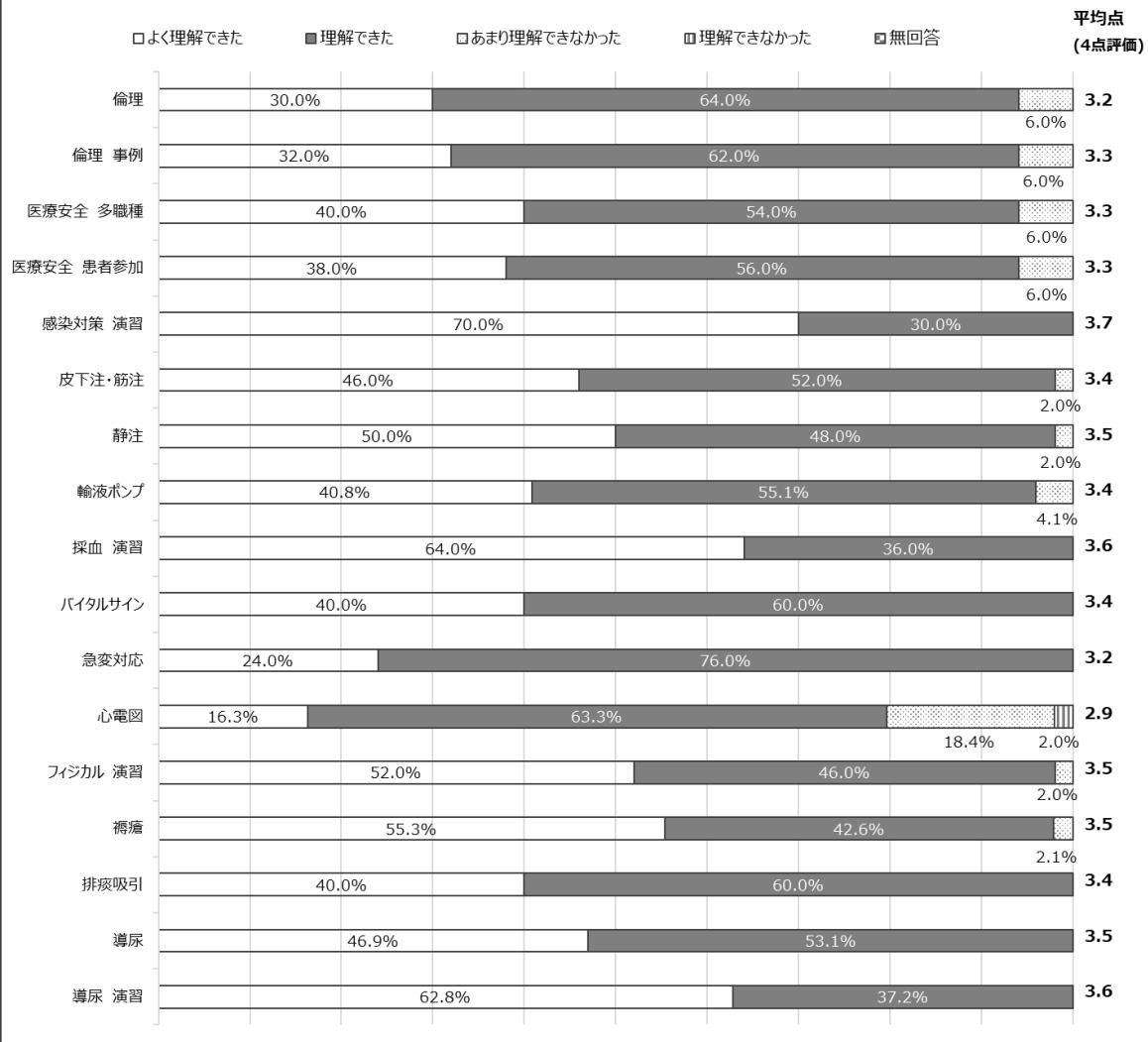
復職支援研修

目的：未就業看護職員の看護技術実践能力と就業意欲を高め、潜在化防止、再就業促進を図る。

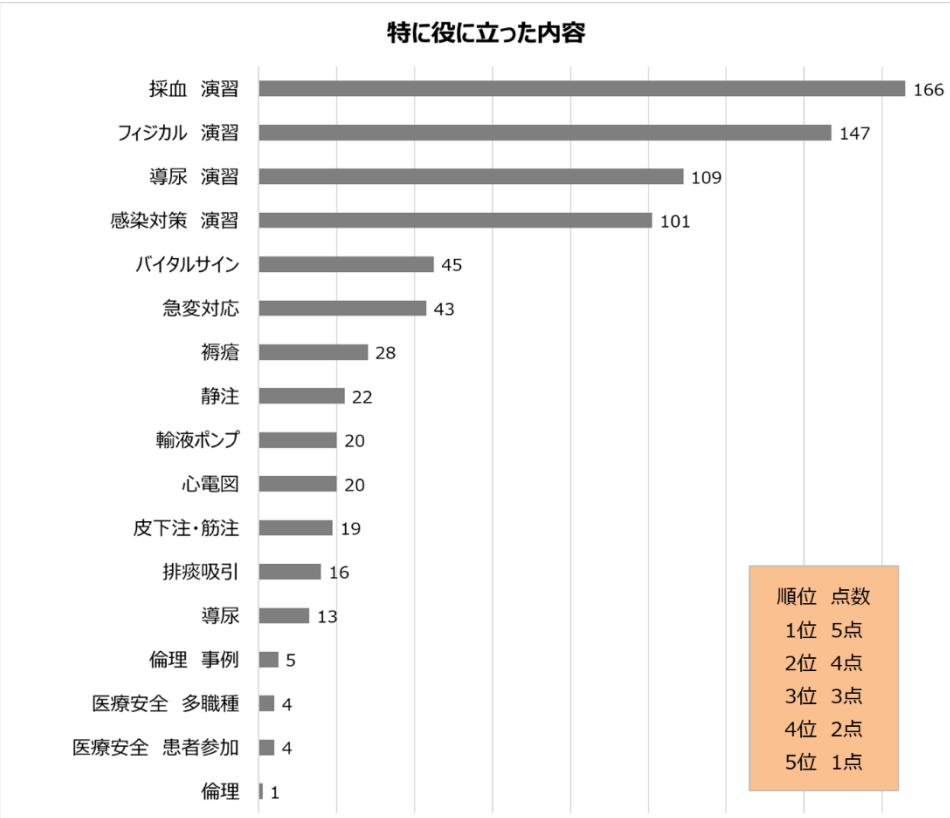
	1日目	2日目	3日目	4日目	申込締切
午前 10:00 ~12:00	【eラーニング】 ・臨床倫理 ・医療安全	【eラーニング】 ・与薬・筋注・静注 ・医療機器	【eラーニング】 ・バイタル測定の意味 ・急変対応	【eラーニング】 ・褥瘡・吸引・導尿 ・膀胱留置カテーテルの感染管理	
午後 13:00 ~15:00	【講義】 ・感染管理	【演習】 ・与薬・筋注・静注	【演習】 ・フィジカルアセスメント	【演習】 ・導尿・吸引	
1 佐世保	4/5 (水)	4/12 (水)	4/19 (水)	4/26 (水)	3/30
2 諫早	5/10 (水)	5/17 (水)	5/24 (水)	5/31 (水)	4/30
3 佐世保	6/7 (水)	6/14 (水)	6/21 (水)	6/28 (水)	5/30
4 佐世保	7/5 (水)	7/12 (水)	7/19 (水)	7/26 (水)	6/30
5 諫早	9/6 (水)	9/13 (水)	9/20 (水)	9/27 (水)	8/30
6 佐世保	10/4 (水)	10/11 (水)	10/18 (水)	10/25 (水)	9/30
7 諫早	12/6 (水)	12/13 (水)	12/20 (水)	12/27 (水)	11/30
8 佐世保	1/10 (水)	1/17 (水)	1/24 (水)	1/31 (水)	12/20
9 諫早	2/7 (水)	3/6 (水)	2/21 (水)	2/28 (水)	1/30

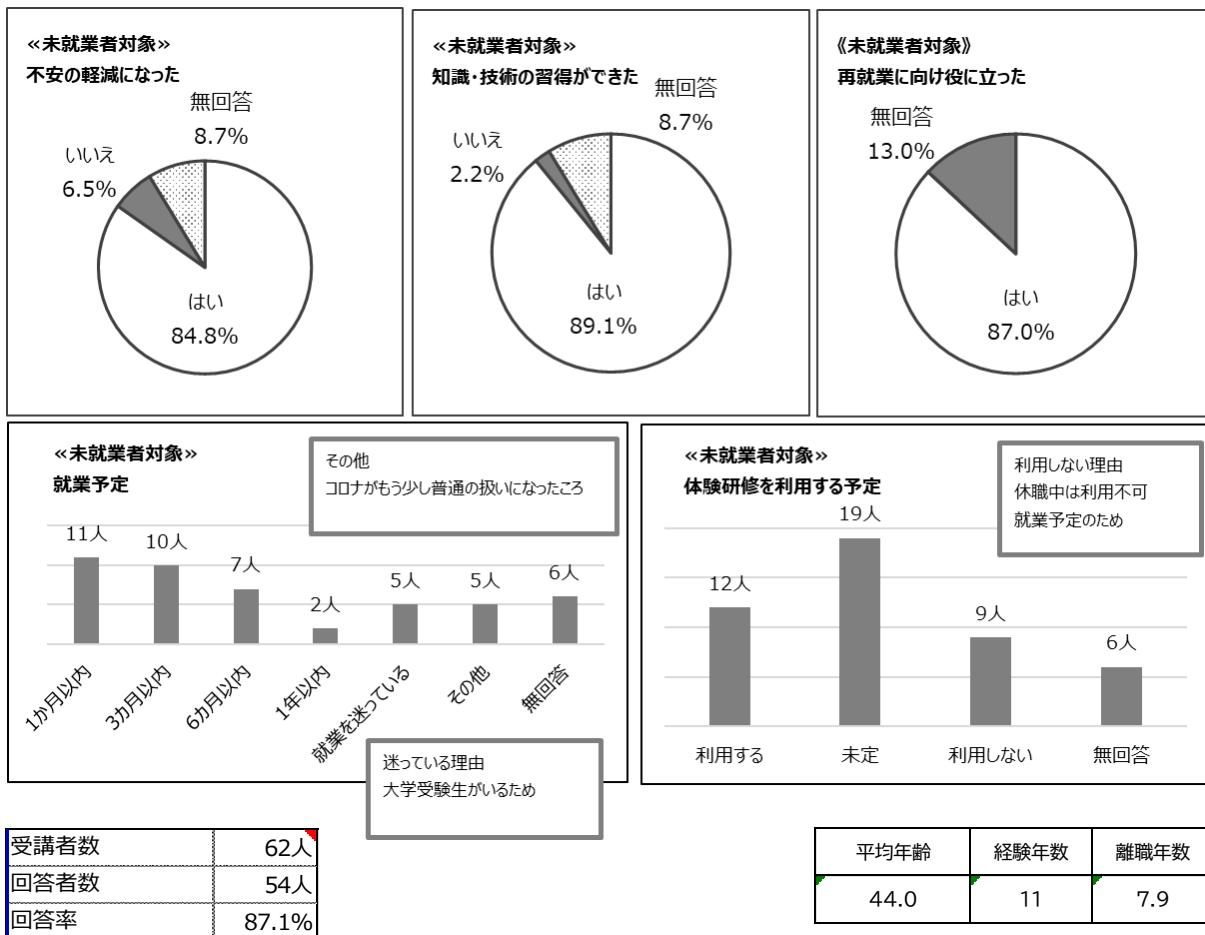


内容について

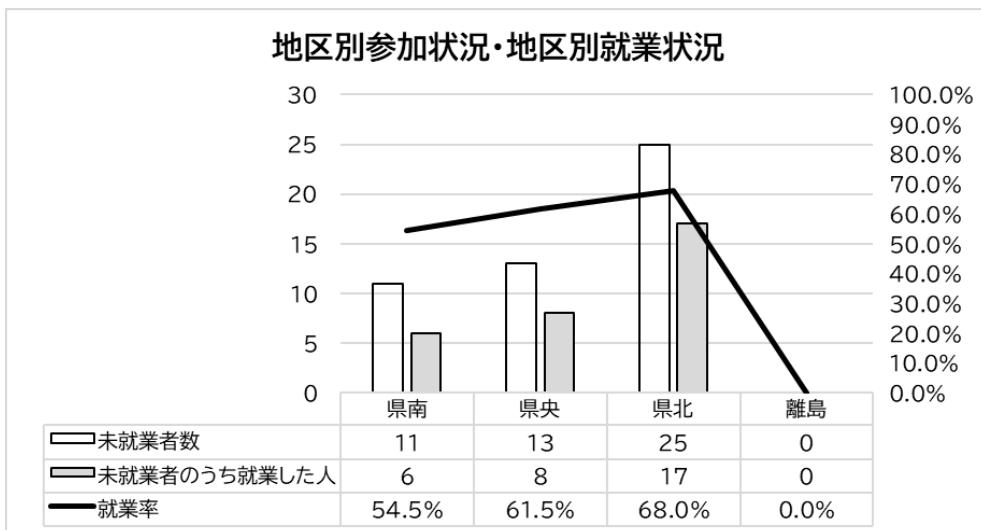


特に役に立った内容





※割合の合計は四捨五入の関係で100%とならない場合もあります。



就業者状況(年齢別・離職年数別)

年齢	離職年数	1年以内	5年以内	10年以内	15年以内	20年以内	21年以上
19才以下							
20才代			2				
30才代			3	3	1		
40才代		2	4	4	2	2	
50才代		2				1	2
60才以上		1	2				

就業先状況

年齢	就業先				
	医療施設	診療所等	福祉施設等	その他	
19才以下					
20才代	2				
30才代	3	1	3		
40才代	7	5	1	1	
50才代	2	1	1	1	
60才代以上	1		2		

<評価>

令和5年度は、参加者62名中未就業者は49名（79%）だった。目的の「未就業看護職員の看護技術実践能力と就業意欲を高める」は、研修内容は佐世保会場と諫早会場は同じとし、過去のデータも参考に受講者が学びたい項目を取り入れ演習を行った。そのことで、演習はどれも就業で役に立つという声が多く聞かれた。技術演習で上手くなる実感があることは就業意欲を高めることにもなる。

目的の「潜在化防止、再就業促進を図る」は、広報活動が重要である。復職支援研修に参加している人からの口コミ、施設へチラシの配布、広報・新聞広告等に掲載した。アンケート調査では、チラシを見て参加した人が54名中32名（59%）である。また、研修終了時に受講者へは、就業希望者がいる場合は知り合いの人へ知らせてもらうように呼びかけた。知人からの紹介は7名（13%）であるが、重要である。また、ホームページからの申込者も17名（31%）だったので、今後、見やすいホームページ作成も検討していく必要がある。復職支援研修を受けた未就業者で復職予定者は1ヶ月以内が11名（24%）、3ヶ月以内が10名（22%）と早く就業を希望している人が多かった。そのため、研修後の就業決定31名の中でも3ヶ月以内の就業者が23名（77%）と早期に就業している人が多かった。本人の意欲と就業相談との連携が早期就業に結び付いたと考える。

<課題と今後の取り組み>

技術演習については、採血・点滴練習キットも充実し、技術演習がしやすい環境ができた。諫早の会場の研修も4回継続で実施する。より看護技術実践能力を高め、就業意欲につなげられるよう、演習できる機会を増やしていきたい。

広報活動として、復職支援研修受講後も看護スキルアップ研修で学べるようアナウンス・チラシ配布等を研修時に行っていく。施設には復職支援研修の意図や内容を伝え、就業相談と一緒に広報していく。看護協会とタイアップして、様々な行事時に復職支援研修の案内を行う。